

【 閲 覧 用 】

問合せ先：総務部行革財政課

0470-22-3291

市ホームページにも掲載しています

館山市の台所事情



令和5年度 決算版

目 次

決算額【令和5年度】	・・・	(1)
一般会計決算	・・・	(2)
市債（借金）と基金（貯金）	・・・	(6)
経常収支比率	・・・	(8)
健全化判断比率・資金不足比率	・・・	(9)
館山市の財政を家計に例えると	・・・	(10)
これからの財政運営のために	・・・	(11)

決算額 【令和5年度】

決算規模

令和5年度決算は、清掃センター基幹的設備改良事業や、館山中学校新校舎等の整備、食のまちづくり拠点施設（道の駅グリーンファーム館山）の整備など、複数の大規模事業が集中したことなどから、歳入・歳出は前年度から増額となりました。

▼会計の区分について

収入と支出の関係を明確にするため、「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」に区分しています。

（ ）内は対前年度比

会計名	歳 入	歳 出
一般会計	269 億 4,239 万円 (+33.6億円：+14.2%)	260 億 9,770 万円 (+33.8億円：+14.9%)

教育、福祉、防災、道路整備、農水産業、商工観光など市の基本的な行政サービスを行う会計です。

会計名	歳 入	歳 出
特別会計	133 億 4,158 万円 (+1.2億円：+0.9%)	129 億 2,874 万円 (+3.3億円：+2.6%)
内 訳	国民健康保険	59 億 3,964 万円
	後期高齢者医療	8 億 6,934 万円
	介護保険	65 億 3,260 万円

特定の事業を特定の収入によって行い、その収支を明確にするために一般会計から独立させた会計です。

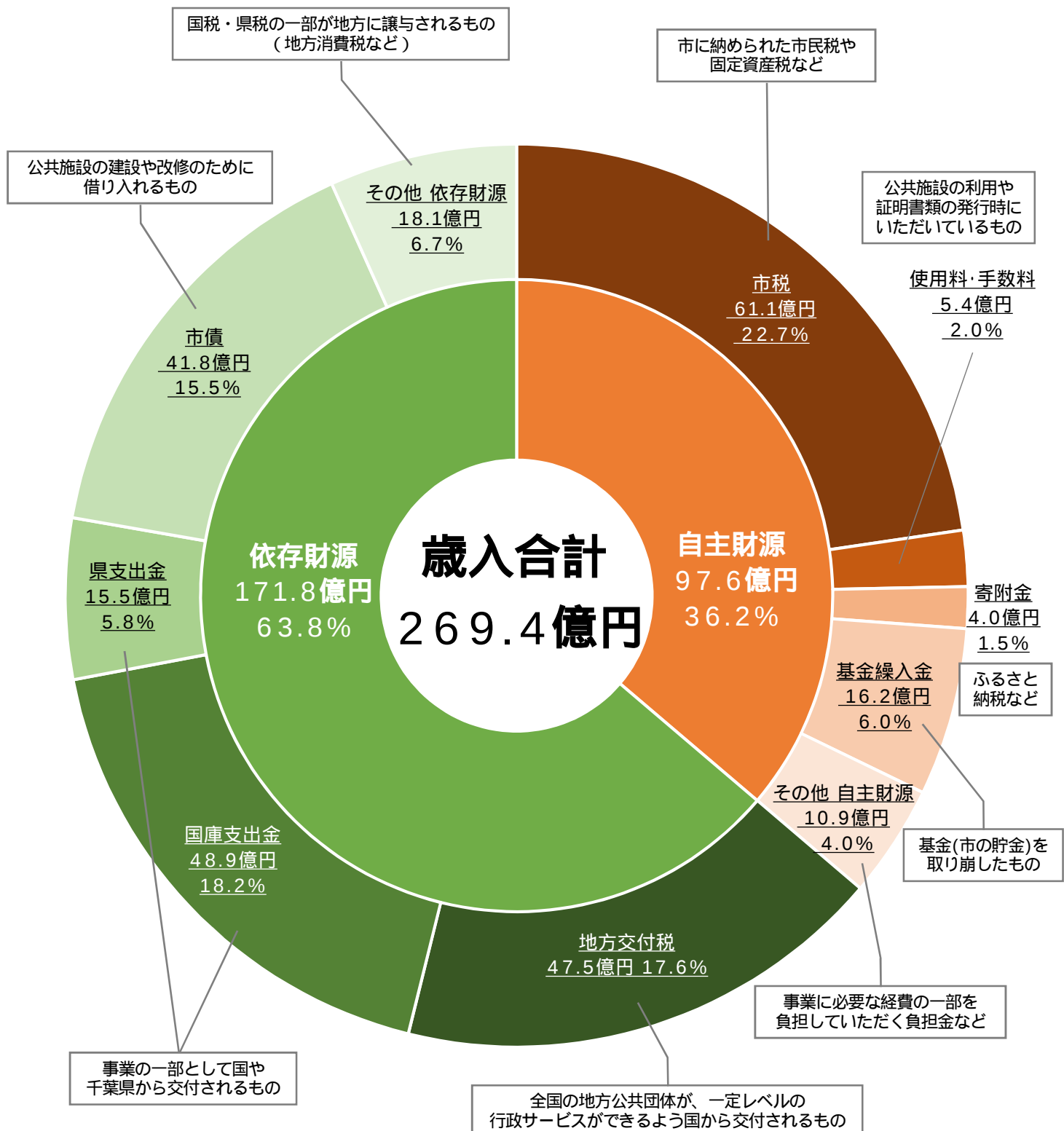
会計名	収 入	支 出
公営企業会計 (下水道事業会計) 右記の金額は、消費税を含む	9 億 9,676 万円 (+0.4億円：+4.4%)	10 億 9,329 万円 (+0.5億円：+4.9%)
内 訳	収益的収支	5 億 6,012 万円
	資本的収支	4 億 3,664 万円

民間企業と同じように、事業で収益をあげて、運営している会計です。

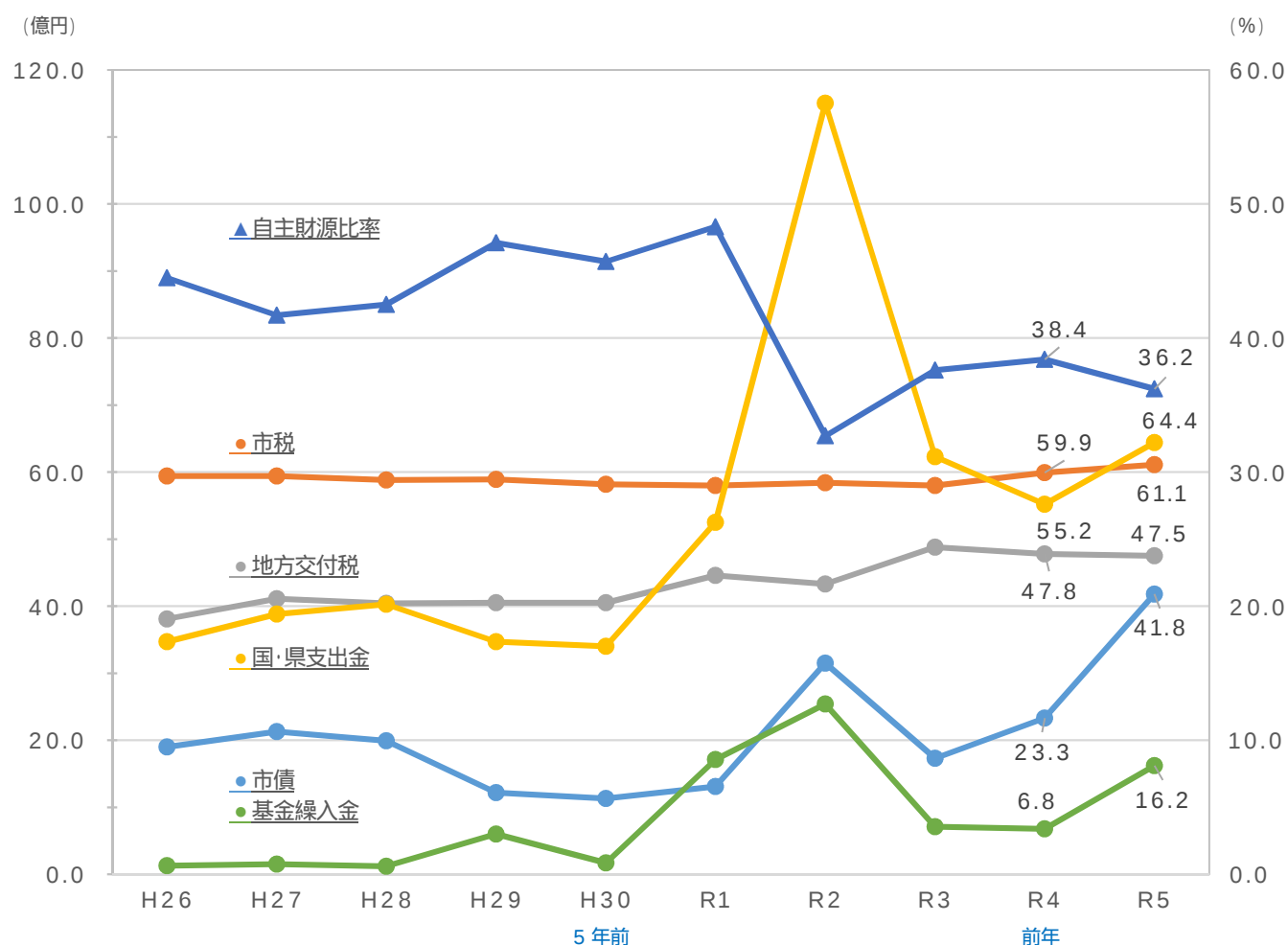
	歳入 ・ 収入	歳出 ・ 支出
総 計	412 億 8,073 万円 (+35.2億円：+9.3%)	401 億 1,973 万円 (+37.6億円：+10.3%)

一般会計決算

歳入の決算状況



10年間の歳入の推移

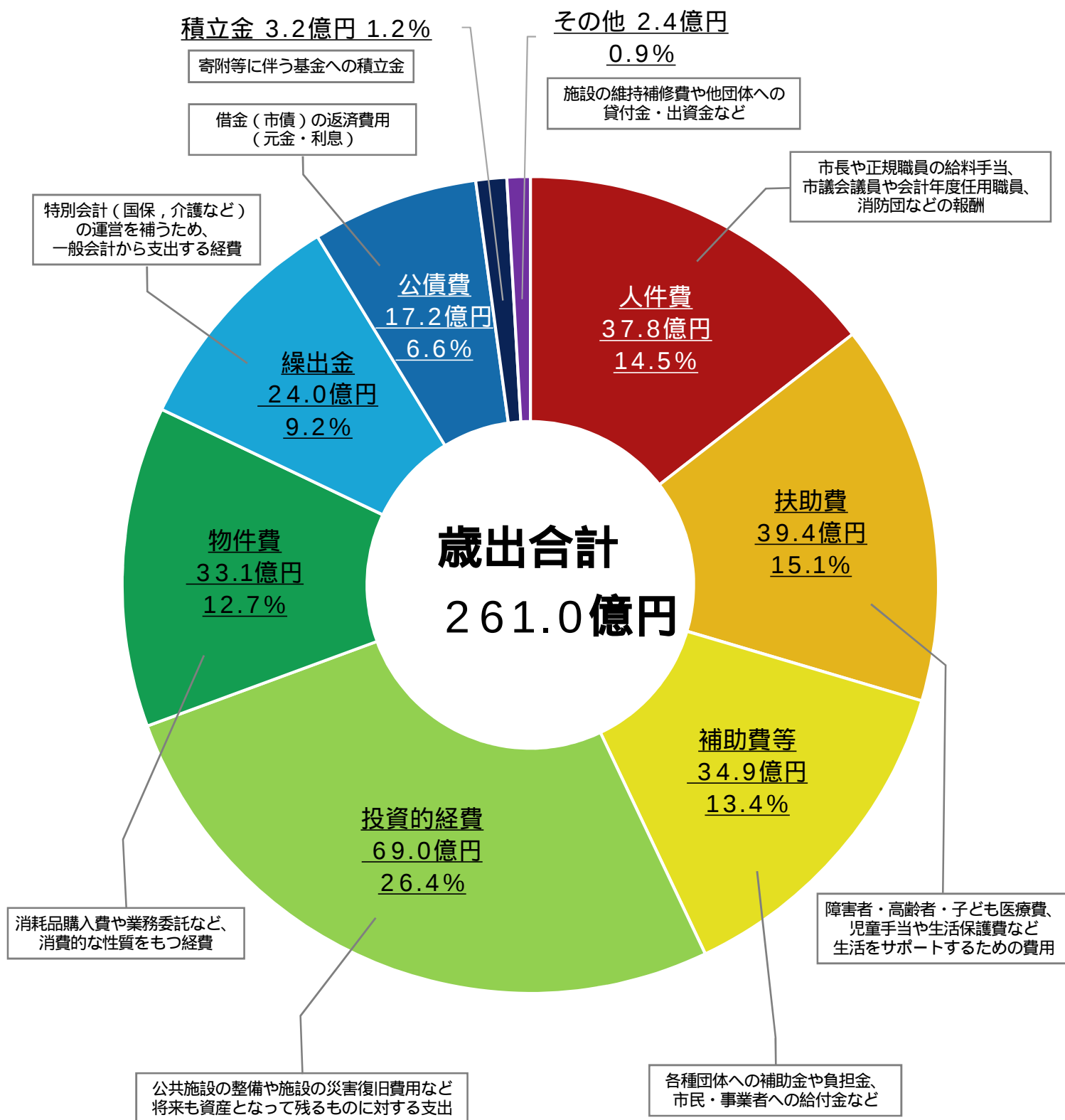


【歳入の特徴】

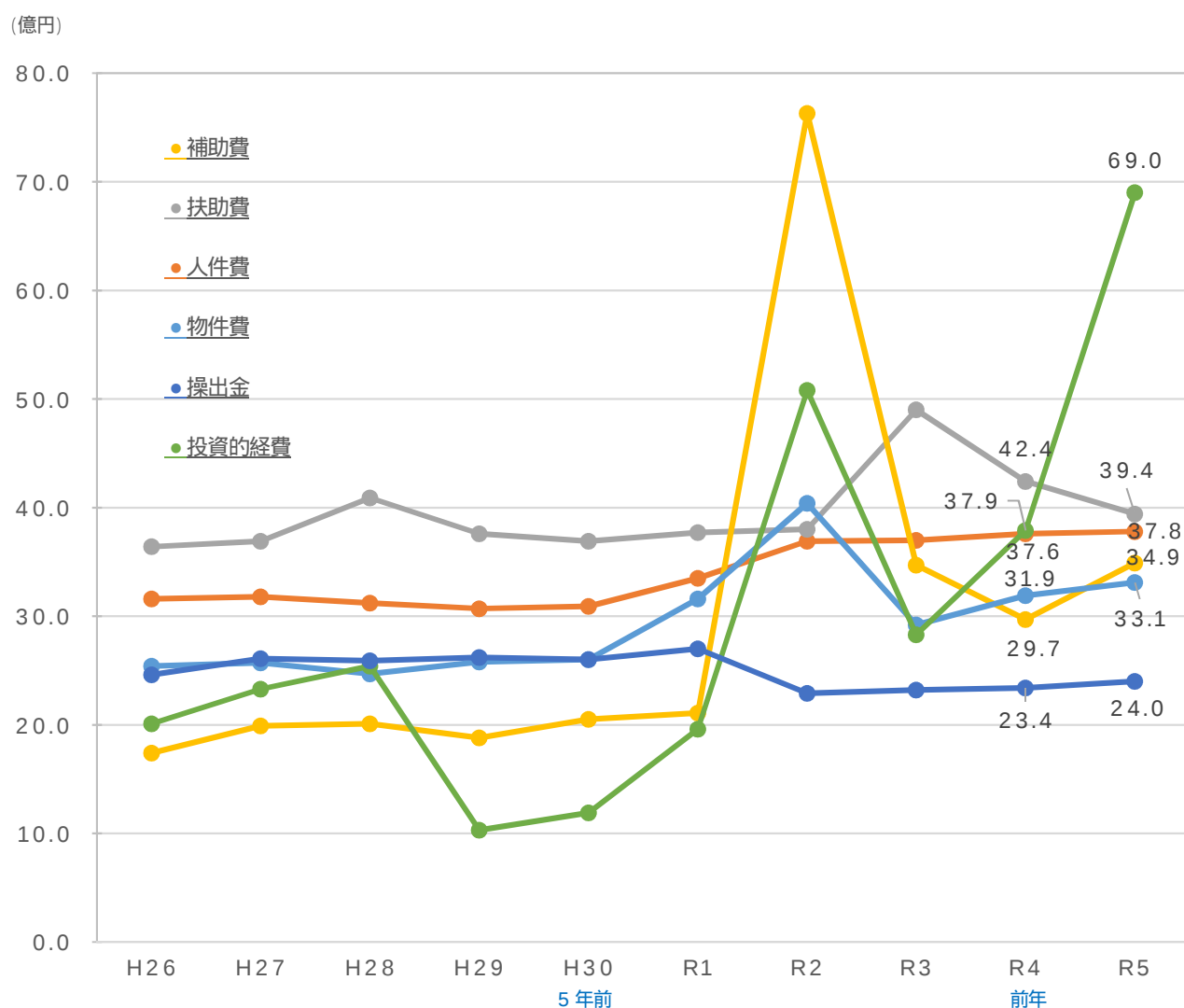
()内は対前年度比

市 税	61.1 億円 (+1.2億円 : +2.0%)	新築家屋の増加、太陽光発電設備や共同住宅の所有者に対する調査による償却資産の増加などにより固定資産税の増加が主な要因です。
国・県支出金	64.4 億円 (+9.2億円 : +16.7%)	館山中学校整備事業に伴う防衛施設周辺防音事業補助金や生産拠点漁港市場機能強化事業補助金の増加が主な要因です。
市 債	41.8 億円 (+18.5億円 : +79.4%)	清掃センター基幹的設備改良事業や館山中学校整備事業を実施するために借入を行ったため、令和5年度決算額は、対前年度比で増額となりました。
地 方 交付税	47.5 億円 (0.3億円 : 0.6%)	普通交付税（市町村の財政力に応じて国から交付されるお金）において、特例分の追加交付が令和4年度から減少し、対前年度比でも減額となりました。

歳出（性質別）の決算状況



10年間の歳出の推移



【歳出の特徴】

()内は対前年度比

扶助費	39.4 億円 (3.0億円： 7.1%)	物価高騰緊急支援給付金、住民税非課税世帯等臨時給付金が減額となり、令和5年度決算額が減額となりました。
物件費	33.1 億円 (+1.2億円： +3.8%)	おこめ券封入等業務委託などにより令和5年度決算額は、対前年度比で増額となりました。
投資的経費	69.0 億円 (+31.1億円： +82.1%)	清掃センター基幹的設備改良事業や館山中学校整備事業などを実施しているため、令和5年度決算額は、対前年度比で増額となりました。
補助費等	34.9 億円 (+5.2億円： +17.5%)	住民税非課税世帯給付金の実施などにより令和5年度決算額は、対前年比で増加額となりました。

市債（借金）と基金（貯金）

市債の役割

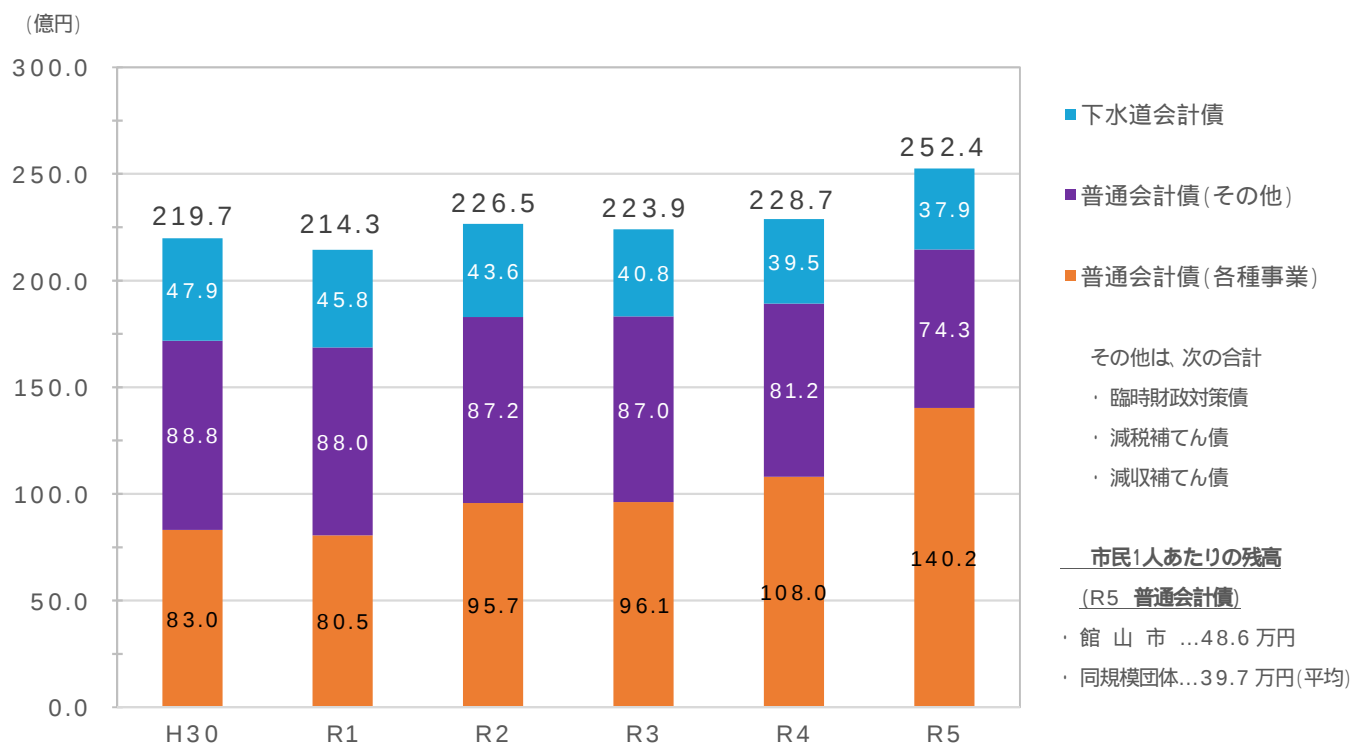
□ 単年度の財源確保

大規模な建設事業を実施した年でも、その財源（収入）を確保することで、他の行政サービスを滞りなく実施することができます。

□ 世代間負担の公平性

公共施設の整備は、将来使用する（便益を受ける）住民にも、その返済費用を負担してもらうことで、世代間の公平性が確保されます。

市債残高の推移



普通会計債 (各種事業)

- 清掃センター基幹的設備改良事業(工期：R3～R5)や館山中学校整備事業(工期：R4～R6)を実施していることにより市債残高が増加しました。今後も大規模事業の実施が継続することにより、市債残高の増加が見込まれています。

普通会計債 (その他)

- 臨時財政対策債の発行が抑えられたことにより、令和4年度から市債残高が減少しました。

下水道会計債

- 償還期限を迎える企業債が増加したことに伴い、残高は減少傾向となっています。

基金の種類と役割

□ 財政調整基金

年度間の財政の不均衡を調整し、安定した財政運営を行うための基金

急激な税收減少や災害時などの不足の事態に備えるもので、「自治体財政運営のかなめ」と言えます。

□ 減債基金

公債費を計画的に償還するための資金を積立てる基金

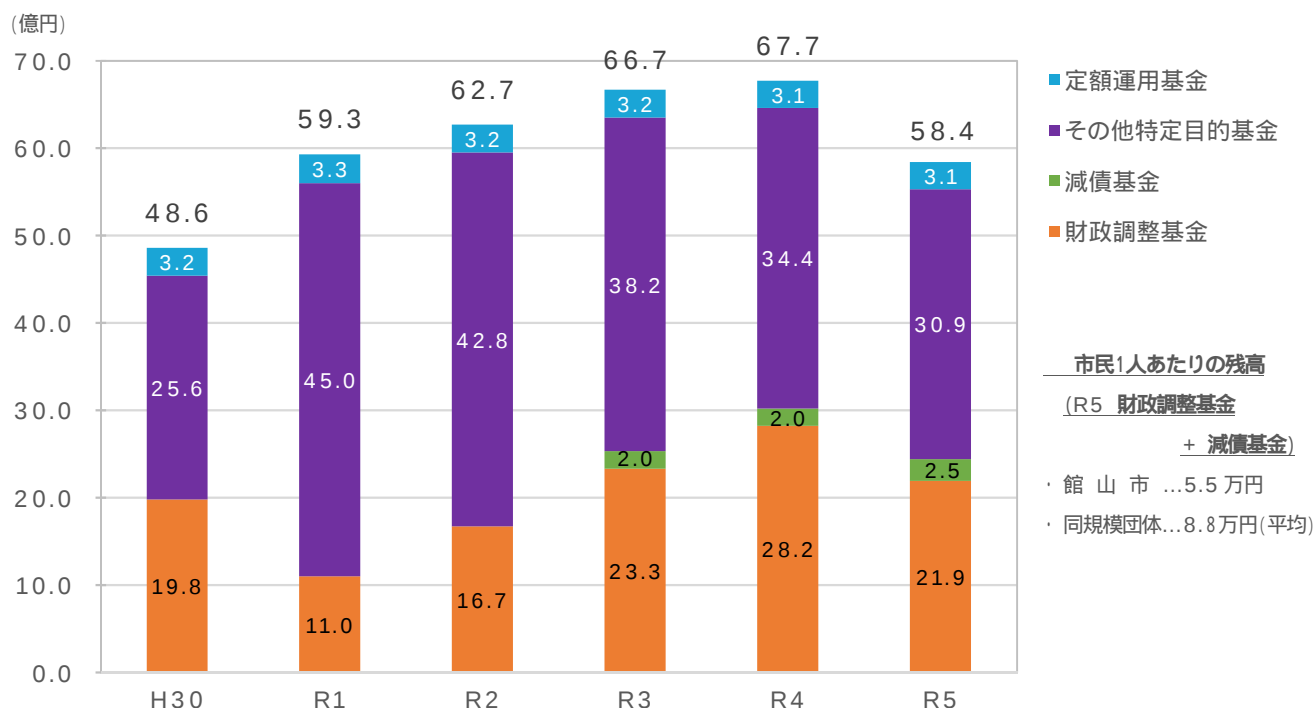
□ その他特定目的基金

特定の用途を定めて積立てる基金（庁舎等建設基金、観光振興基金、子ども・子育て支援基金など）

□ 定額運用基金

定額を積立て、資金を運用する基金（土地開発基金、看護師等修学資金貸付基金など）

基金残高の推移



財政調整基金

- 清掃センター基幹的設備改良事業や館山中学校整備事業などの実施により基金の取り崩しを行ったため、基金残高が減少しました。

減債基金

- 追加交付があった普通交付税の特例分のうち、今後の地方債償還費用として交付された分を積立てました。

その他特定目的基金

- 新型コロナウイルス感染症対策事業や館山中学校整備事業などの実施により基金の取り崩しを行ったため、基金残高が減少しました。

定額運用基金

- 近年の推移では、大きな増減はありません。

基金積立額は、財政規模や使用目的に応じ、適正な規模の貯えとなるよう、それぞれの自治体において計画的に積み立てることが求められます。

経常収支比率

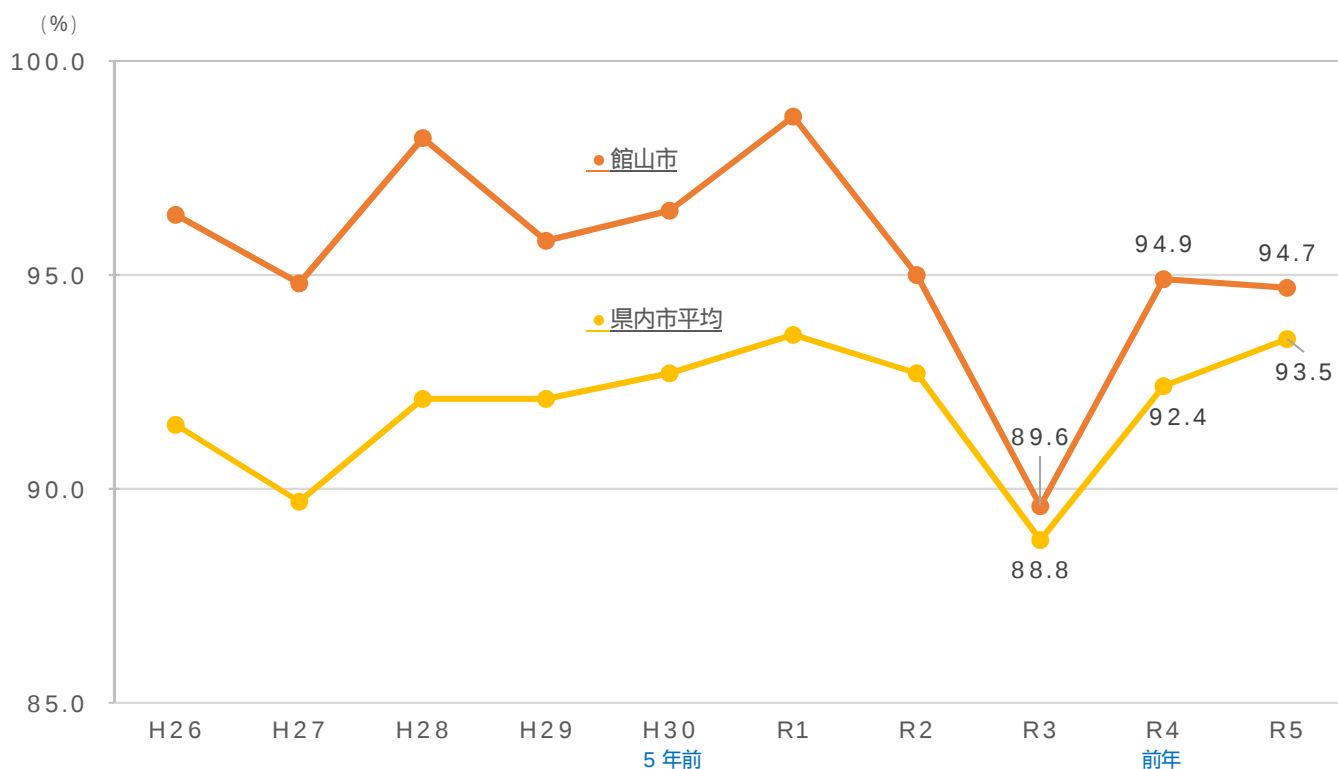
経常収支比率とは

□ 自治体の財政構造の弾力性を示す財務指標

「市の基本的な収入の何%を定例的な支出に充てているか」を表すもので、数値が低いほど柔軟性（自由に使えるお金が多い）があると言えます。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常的な支出（人件費、扶助費、借金の返済など）}}{\text{自由に使える経常的な収入（市税、普通交付税など）}}$$

経常収支比率の推移



経常収支比率

94.7%

(対前年度：-0.2ポイント)

分母となる「経常的な収入」のうち「普通交付税」や「臨時財政対策債」減少し、分子となる「経常的な支出」のうち「補助費」や「公債費」などが減少しました。分子となる「経常的な支出」の減少額が、分母である「経常的な収入」の減少額を上回ったことにより、昨年度と比較すると比率が減少しました。

健全化判断比率・資金不足比率

健全化判断比率・資金不足比率とは

□ 自治体の財政運営が健全かどうかを示す指標

市の財政規模（標準的な一般財源の収入額など）に対する赤字額や借金額の割合によって表される指標であり、国が定める基準を超えないように財政運営することが求められます。

実質赤字比率	...普通会計の赤字の程度を表す指標
連結実質赤字比率	...全ての会計を合算した市全体の赤字の程度を表す指標
実質公債費比率	...借金の返済額が財政に及ぼす影響を表す指標
将来負担比率	...借金の残高が財政に及ぼす影響を表す指標
資金不足比率	...公営企業会計ごとの資金不足額の程度を表す指標

健全化判断比率・資金不足比率の推移

（単位：％）

各種指標	H30	R1	R2	R3	R4	R5	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	-	-	-	-	-	13.10	20.0
連結実質赤字比率	-	-	-	-	-	-	18.10	30.0
実質公債費比率	6.0	5.9	5.7	5.5	6.1	6.8	25.0	35.0
将来負担比率	45.3	27.3	29.9	26.7	21.2	51.1	350.0	-
資金不足比率	-	-	-	-	-	-	20.0（経営健全化基準）	

表内の「-：ハイフン」は、決算で赤字や資金不足が生じていないため、指標がないことを表しています。

実質公債費比率 6.8 % （対前年度：+0.7ポイント）	実質公債費比率は、3カ年の平均値で算出され、単年度の比率が増加傾向にあることにより増加しました。令和5年度単年度の比率は、7.58%であり、令和4年度単年度の比率と比べ0.04ポイント減少しました。 $\text{実質公債費比率} = \frac{\text{地方債の償還金やそれに準ずるものなど}}{\text{標準財政規模(標準的な税収や普通交付税など)}}$
将来負担比率 51.1 % （対前年度：+29.9ポイント）	指標の分子となる将来負担すべき負債である「地方債の現在高」などが増加したことにより、将来負担比率が増加しました。 $\text{将来負担比率} = \frac{\text{地方債の残高や債務負担行為による支払予定額など}}{\text{標準財政規模(標準的な税収や普通交付税など)}}$

館山市の財政を家計に例えると

館山市の家計簿

一般会計決算を「家庭の総収入300万円（1か月25万円）の家計」に例えてみると・・・

収入（1か月）	
給与（市税収入）	5.7万円
手当（使用料など）	3.2万円
臨時手当（寄付金）	0.4万円
貯金取崩し（基金繰入金）	1.5万円
親からの援助 （地方交付税・国県支出金）	10.3万円
銀行からの借入（市債）	3.9万円
合計	25.0万円

支出（1か月）	
食費（人件費）	3.6万円
医療費（扶助費）	3.8万円
ローン返済（公債費）	1.6万円
水道光熱費（物件費）	3.2万円
交際費（補助費）	3.3万円
リフォーム（投資的経費）	6.6万円
こどもへの仕送り（繰出金）	2.3万円
貯金（基金繰出金、積立金）	0.3万円
貸付金など（貸付金、出資金）	0.3万円
合計	25.0万円

【現状】

「給与」や「手当」のほか、「親からの援助」に頼っている状況です。

【改善点】

「親からの援助」に頼りすぎず、「給与・手当」の割合を増やすことが重要です。

また、「銀行からの借入」は、上限額を決めて計画的に行う必要があります。

【現状】

「食費」や「医療費」などの固定費が大きな割合を占めており、自分の裁量で使用できるお金はほとんどありません。

また、大規模な建設事業の実施により「リフォーム」費が増えています。

【改善点】

日々の節約を基本に、大きな買い物は計画的に行い、建物を適正規模にして水道光熱費やリフォーム代を抑えるなど、中長期的な視点でライフスタイルを見直し、上手にやりくりしていくことが重要です。

また、万が一の災害等に備えた準備も必要です。

これからの財政運営のために

館山市に行財政改革が必要な理由

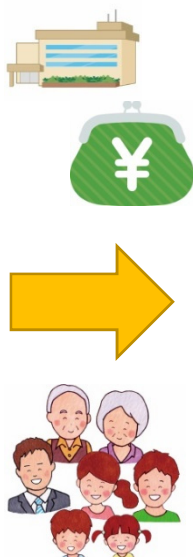
将来の心配事・・・

人口の減少による
税収などの伸び悩み

さらなる少子高齢化による
福祉・医療費の増加

「ゆとり」のない財政運営

公共施設の老朽化



これから増加する費用や 新たな市民サービスの向上を図るためには・・・

市民協働
(行政、市民・NPO 団体などの役割の明確化)

行政サービスを受ける人の応分の負担

生活習慣病の予防、病気の早期発見・治療など
健康寿命を延ばす施策による医療・介護費の削減

公共施設の統廃合・民間委託の推進

行財政改革の取組

市では今後の中長期的な財政予測や、現状の課題点を踏まえ、令和5年3月に「第4次館山市行財政改革方針」を策定し、行財政改革に資する具体的施策を定め、取り組んでいます。

取組の種類	内容
持続可能な財政運営	- 健全な財政基盤の確立 - 地域経済の活性化 - 自主財源等の歳入確保 - 歳出改革と将来負担の軽減
公共施設等の 管理・運営の最適化	- 公共施設マネジメントの推進 - 脱炭素化への取り組み - 民間活力を生かした公共施設等の管理運営
行政サービスの質の向上と 効率化・DXの活用	- 戦略的な組織体制の構築 - 住民サービスの向上 - 市政に参加しやすい環境づくり・市民協働の推進 - 情報ネットワークの強化・ICTを活用したサービスの向上

館山市の台所事情

令和 5 年度 決算版

令和 6 年 1 0 月作成

館山市総務部行革財政課

T E L 0470-22-3291

F A X 0470-23-3115

E - Mail gyouzai@city.tateyama.chiba.jp